

ニューオリンズと松江の姉妹都市関係再開

2012年1月10日
在ナッシュビル日本国総領事館

2011年10月6日から9日まで、松浦松江市長率いる松江市訪問団が、ルイジアナ州ニューオリンズ市を訪問しました。後に日本で小泉八雲として知られることになったラフカディオ・ハーンが来日前にニューオリンズに居住していたことが縁で、1994年以来、両市は友好都市関係にあります。しかし、首長レベルでの両市の交流は、1995年の宮岡松江市長の公式訪問以来、実に16年ぶりに再開されたものでした。



両市の交流は、中学生やジャズ・ミュージシャンや陶芸家等の芸術家の相互訪問その他を通じ、これまでも脈々と続けられていました。2003年には、ニューオリンズ市内シティー・パーク内に竣工された日本庭園のために、松江市から石灯籠三基が贈られました。

2005年8月にハリケーン・カトリーナがニューオリンズ市を直撃し多くの犠牲者が出た際、松江市からは、市長からのお見舞いの手紙や、市民からの義援金がニューオリンズ市民に宛てて贈られました。2011年3月11日の東日本大震災に際しては、その時の恩返しをしたいと有志が立ち上げたニューオリンズ地震救済基金を通じて、多くのニューオリンズ市民による義援金が今日に至るまで日本の復興のために贈られ続けています。

友好都市提携18年目となる2011年、松江市ではニューオリンズ市との関係再開の展望を開くため、友好訪問を希望し、ニューオリンズ市に連絡を試みました。ハリケーン・カトリーナ被害後に受けた日本からの多大な支援にいまも感謝の念を抱くニューオリンズ市民は、東日本大震災に見舞われた日本に対して格別の感情を持ってきたこともあり、ニューオリンズ市側では、松江市一行の訪問を受け入れることに大変前向きな姿勢でした。しかし、16年ぶりの交流再開には、様々な挑戦が立ちはだかっていました。

以前の関係者は、両市ともに人事異動で交替しており、ニューオリンズ市側の担当者が誰なのかを確認することから始めなければなりません。また、日米の時差は14

時間あり、松江市側の担当者は眠い目をこすりながら、夜更けに国際電話をかけて奮闘しました。そのような事情を知るに至ったナッシュビル総領事館では、地元の名士でもあるドナ・フレッシュ日本国名誉総領事と連携を取り、ニューオリンズ市の担当者との円滑な連絡のお手伝いをしました。ニューオリンズ日本庭園を建設した日米関係者も輪に加わり、振り出しから始まったかに思えた姉妹都市交流の再開は、10月に実現するに至ったのです。



松浦市長ほか訪問団は、ルイジアナ最大の日本紹介行事、ジャパン・フェストにも参加し、ジャパン・クラブ会員やナッシュビル総領事館員らとともに松江市を紹介するとともに、地元のアメリカ市民、在留邦人、学生やボランティアとの交流を深めました。また、元JETプログラム参加者らとの交流を通じ、小泉八雲や観光等を媒介とした今後の交流促進の展望も広がり、将来の交流活発化に向けた新しい種が芽吹いた訪問となりました。

ナッシュビル総領事館では、今後も日米市民交流の活発化のために喜んでお手伝いをして参ります。(了)